

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立巽小学校

大阪市立巽小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では学校教育目標を「豊かな心をもち、自ら考え、たくましく生きぬく子どもを育てる」とし、めざす子ども像を「楽しく学ぶ子」「思いやりのある子」「ねばり強い子」としている。

課題解決の手立てとして、ICTの効果的な活用等により個に応じた指導を工夫し、「楽しく学ぶ子」「ねばり強い子」の育成を図っていく。

また、規範意識を育成し、きまりや約束を守り、自律的な生活態度を身につけると共に、対話を大切にしながら様々な学習や活動を通して、互いの思いや考えを尊重し合い、豊かな人権感覚を醸成し、生き抜く力を培っていきたいと考える。

【児童が安心して楽しく通える学校づくり】

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、学校行事など工夫をしながら、可能な形で実施することに取り組んできた。ただ、感染への不安から登校を控える児童がいたり、これまでにない様々な状況の変化も一つのきっかけとなり、不登校傾向となる児童が増えたりしたと考えられる。児童が安心して学校に通えるよう、感染症対策を十分に行った上で、学級活動・異学年集団活動や体験的な学習を充実させ、毎日楽しく通える学校づくりを目指す必要がある。

そこで、道徳や人権教育の取組から、互いのちがいを理解すると共に、友だちのよさを見つけ尊重し合い、相手の立場になって考え、いじめを許さない仲間づくりをすすめる。

【学力・体力の向上】

引き続き、教員一人ひとりの指導力の向上を図り、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を育成していく。

3年生以上における外国語の授業においては、より充実した学習となるよう、専門的な知識・技術をもつ外部人材(C-NET含む)の活用を積極的に行う。

日常的に手洗いうがいの励行を行うことで習慣化を図っている。また、早寝早起きの生活習慣の確立や毎日の食の指導を通して、健康な体づくりへの意識を高めさせていく必要がある。様々な健康週間を実施し、その年度にあった健康づくりを推進する。

【ICT機器の活用】

主体的・対話的で深い学びをすすめるため、一人一台端末の積極的な活用を図る。どの教員も授業でICT機器をスムーズに活用できるよう、校内研修を充実させる。

【教職員のゆとり確保】

年間を通して児童へのより良い授業・指導を行うには、教職員も時間的・精神的な余裕を持つことが必要である。そのため、教職員のゆとりの日を設定したり、年次休暇取得を促進したりする。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。(R5 76.4%) (R6 81.2%) (R7 77%)
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(1 安全・安心な教育環境の充実) (R3 3年90.5% 4年90.8% 5年91.9% 6年94.5% ⇒91.9%) (R4 3年83.6% 4年93.9% 5年96.8% 6年84.4%⇒89.7%) (R5 3年91.6% 4年92% 5年89.4% 6年85.3%⇒89.6%) (R6 3年84.5% 4年87.1% 5年96.1% 6年94.1%⇒90.5%) (R7 3年80.0% 4年83.6% 5年79.2% 6年94.0%⇒84.2%)
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。(2 豊かな心の育成) (R3 3年62.5% 4年75.4% 5年72.6% 6年79.5% R5 76.2% R6 84.9% R7 3年70% 4年77.2% 5年66% 6年76%⇒72.3%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を、40%以上にする。(R3 3年41.7% 4年36.5% 5年34.5% 6年35.2%) (R5 3年31.7% 4年86% 5年71.2% 6年78.7%) (R6 3年48.3% 4年38.9% 5年39.2% 6年33.8%⇒40.1%) (R7 3年40% 4年41.8% 5年30.2% 6年44%⇒39%)
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も毎年1ポイント向上させる。(R7 国語 -0.79P 算数 -2.1P)

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R3 3年79.7% 4年69.2% 5年72.5% 6年82.2%) (R5 3年73.3% 4年86% 5年71.2% 6年78.7%) (R6 3年89.6% 4年72.2% 5年78.5% 6年72.1%⇒78.1%) (R7 3年77.5% 4年81.8% 5年75.5% 6年76%⇒77.7%)
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。(R3 63.6%) (R5 72.9%) (R6 71%) (R7 70.6%)
- コロナ禍であっても、健康週間を位置づけ、健康に関するアンケート(運動・給食・睡眠など)に対して、肯定的な回答をする児童の割合を年々増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の児童アンケートにおける「日々の授業の中で学習者用端末(タブレット)を活用して学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を80%以上にする。(デジタルドリルの活用が楽しい 経年調査 R3 3年73.4% 4年80.0% 5年75.8% 6年84.9%) (R7 86%)
- 令和7年度において年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。(R6 96%)
- 令和7年度において「ゆとりの日」を週1回設定し、「ノー残業デー」とする。学校閉庁日について夏季休業中は5日以上、夏季休業中以外の休業期間においては3日以上設定する。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について肯定的に答える保護者の割合を、令和4年度より5ポイント増加させる。(R4 79%) (R5 84.1%) (R6 84%) (R7 84%) ⇒5P増加

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。(R4 74.1% R5 76.4% R6 81.2% **R7 77%**)
調査に児童の割合を80 (R5 R6 79.9% **R7 72%**)
- 児童アンケートにおける「学校に行くのが楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R5 88% R6 86.3% **R7 86.4%**)
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を91%以上にする。(R5 89.6% R6 90.5% **R7 84.2%**)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を1以上にする。(R3 30.9% R4 41.6% R5 39.4% R6 40.1% **R7 39%**)
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を2以上にする。(R3 55.9% R4 69.0% R5 72.9% R6 71% **R7 70.6%**)
- 小学校学力経年調査における「勉強か」に対して肯定的に回答する児童の割合を同一母集団で前年度より上昇させる。(R5 3年73.3% 4年78.5% 5年57.6% 6年62.3%) (R6 3年72.5% 4年68.5%↓ 5年80.4%↑ 6年51.5%↓) (**R7 3年 47.5% 4年80%↑ 5年71.7%↑ 6年74%↓**)
- 新体力テスト(4～6年生)の体力合計点を前年度より1ポイント向上させる。(R3 男子45.40 女子50.20) (R4 男子51.29 女子56.13) (R5 男子49.16 女子52.15) (R6 男子50.52↑ 女子51.86↓) (**R7 男子49.6↓ 女子53.6↑**)
- 心と体の健康のための生活習慣校内アンケートの肯定的な回答の割合を全校平均85%以上にする。(R7 87%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の63%以上にする。(R5 1% (全体の活用率は42.3%)) (R6 62.9%) (**R7 66.7% (12月までの平均)**)
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を97%以上にする。(R6 96%)
- 児童アンケートにおける「学校生活で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R5 前期76% 後期84%) (R6 89%) (**R7 86%**)
- 毎週金曜日に「ゆとりの日」または「ノー残業デー」を設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は5日以上、冬季休業中は5日以上設定する。(R5夏5回 冬5回) (R6 夏5回 冬5回) (**R7夏5回冬5回**)

大阪市立巽小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。 (R4 74.1% R5 76.4% R6 81.2% R7 77.0%) 調査に児童の割合を80 (R5 R6 79.9% R7 72.1%)</p> <p>○児童アンケートにおける「学校に行くのが楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R5 88% R6 86.3% R7 86.4%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を91%以上にする。(R5 89.6% R6 90.5% R7 84.2%)</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>・いじめアンケートを学期に1回実施し、認知した事案に対して児童への聞き取り・指導を行う。</p> <p>指標</p> <p>・における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を89%以上にする。 【R5 86% R6 88.5% R7 86.7%】</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>・学級活動や異学年集団活動において、実施方法・内容を工夫し、友だちと交流することの楽しさを感じられるようにする。</p> <p>指標</p> <p>・児童アンケートにおける「学校に行くのが楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87以上にする。【R5 88% R6 86.3% R7 87.2%】</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>・対話を大切にしながら様々な学習や活動を通して、互いの思いや考えを尊重しあい、自己肯定感や自己有用感を醸成し、生き抜く力を培う。</p> <p>指標</p> <p>・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R5 76.2% R6 79.9% R7 72.1%)</p>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 「いじめアンケート」を計画的に行い、認知した事案については児童への聞き取り、すみやかに指導、対応することができた。生活指導部会、児童に関する情報交換の場で共有し、学校全体で指導にあたることができています。また、道徳参観において、「親切・思いやり」「相互理解・寛容」に関わる項目に関する学習を全校で行った。後期児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は86.7%で、指標を達成することはできなかった。しかし、「あまりおもわない」や「まったくおもわない」という否定的な回答をしている児童の数は前期10人ほど</p>	

いたのに対して5人ほどに減っている。「まあまあ思う」という肯定的ではあるが曖昧な回答をする児童も減って、数値としては良くなっている傾向にあった。【R5 86% R6 88.5% R7 86.7%】

- ② 学年・学級での活動や、異学年交流であるペア集会・異フェスティバル・150周年記念集会など児童が主体的に楽しめる活動を実施することができた。また、6年生による1年生への給食、清掃補助、1、2年生で学校探検、チューリップの球根植え、大阪・関西万博へのペア遠足など複数学年での学習の機会を増やすことができた。さらに、3月には6年生の地域とのふれあい行事を行うことも予定している。後期児童アンケート結果は、「学校に行くのが楽しいですか」の肯定的回答の割合は前期より下がった86.4%であり、後期としては指標を下回っていた。【R5 88% R6 86.3% R7 87.2%】
- ③ 道徳の授業を計画通りに行い、朝の会や帰りの会で「いいところみつけ」を行うなど児童の自己肯定感が高まるような活動を意図的に学校生活の中に取り入れてきた。その結果、「自分のことが前よりも好きになった」という声が児童から聞かれ、自他のよいところを積極的に探そうとする機運に高まりがみられた。しかし、自己肯定感の低い児童が少なからずいて、全体の数値としては72%と目標には届かなかった。

次年度への改善点

- ① アンケート結果の数値としては達成できなかったが、否定的な回答を答える児童の数は減った。否定的な意見の児童については、次年度も日々の様子や道徳ノート、心の天気の中で見守りを継続していく必要がある。
- ② 児童が主体的に活動できる場や行事を引き続き行っていく。また、異学年交流やふれあい行事を精選して行っていく。それらと並行して、学習面や友達関係の不安に寄り添っていけるように、丁寧に指導や問題解決をしていく必要がある。また、否定的な意見の児童についてもどのような要因で否定的に感じているのかを学年・学級で把握し、見守りを継続していく。
- ③ 児童のがんばりに対しタイミングよく称賛の声かけを行うなど、児童が自己肯定感を高めていくことができるような取り組みを引き続き継続するとともに、自己肯定感の低い児童を把握・情報共有し、様々な機会を通じて認める活動を行っていく。また、お便りや学校ホームページなどで呼びかけを行い、子どもたちの姿を認め、ねぎらい、温かい一言をかけるよう各家庭への啓発活動を行う。

大阪市立巽小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を1以上にする。(R3 30.9% R4 41.6% R5 39.4% R6 40.1% R7 39%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を2以上にする。(R3 55.9% R4 69.0% R5 72.9% R6 71% R7 70.6%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「勉強か」に対して肯定的に回答する児童の割合を同一母集団で前年度より上昇させる。(R5 3年73.3% 4年78.5% 5年57.6% 6年62.3%) (R6 3年72.5% 4年68.5%↓ 5年80.4%↑ 6年51.5%↓) (R7 3年 47.5% 4年80%↑ 5年71.7%↑ 6年74%↓)</p> <p>○新体力テスト(4～6年生)の体力合計点を前年度より1ポイント向上させる。(R3 男子45.40 女子50.20) (R4 男子51.29 女子56.13) (R5 男子49.16 女子52.15) (R6 男子50.52↑ 女子51.86↓) (R7 男子49.6↓ 女子53.6↑)</p> <p>○心と体の健康のための生活習慣校内アンケートの肯定的な回答の割合を全校平均85%以上にする。(R7 87%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・児童一人ひとりの基礎基本の学力の向上を図り、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	B
<p>指標</p> <p>・小学校学力経年調査における国語の大阪市平均との標準化得点を同一母集団において経年的に比較し、前年度より0.1ポイント向上させる。(R7 4年99.0%→95.0%↓ 5年96.0%→96.2%↑ 6年98.5%→99.9%↑)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・外国語活動やイングリッシュタイムにおいて、ゲームやアクティビティなどのコミュニケーション活動を通して、楽しみながら進んで伝え合う力の育成を図る。</p>	C
<p>指標</p> <p>・児童アンケートにおける「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。(R5 82.3%) (R6 85%) (R7 82%)</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>・児童の運動に対する興味・関心を高めるとともに、目標を達成した喜びを味わえるようにする。</p>	C
<p>指標</p> <p>・新体力テスト(4～6年生)の長座体前屈の記録を、同一母集団で前期・後期を比べ5cm以上向上させる。</p>	

<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究をはじめ、健康週間や保健だよりなど啓発活動を行い、心身ともに健康な生活のための習慣を身につけることができるように指導を工夫する。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内児童アンケートを実施し、心と体の健康のための生活習慣について、肯定的な回答の割合を全校平均85%以上にする。(R7 87%) 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 各教科・領域の学習活動の中で対話の活動を取り入れた授業実践を行ってきた。その結果、経年調査における「友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対しては、全学年が全市平均を上回る肯定的回答率であった。一方で、同調査の国語科の標準化得点に目を向けると、経年的に比較して目標を達成できた学年は3学年中2学年であり、対話の経験がテストの得点率に直接結びついているとは言えない。</p> <p>② 学校アンケートでの「外国語（英語）の学習は楽しいですか」の質問に対して肯定的回答は82%で指標を達成することはできなかった。しかし、イングリッシュタイムの放送を実施したことで、児童が英語に親しむ機会を増やすことができた。外国語の授業では、C-NET から英語の発音を教えてもらったり、英語でコミュニケーションを取ったりしたことで児童の学力向上に繋がった。</p> <p>③ 経年調査の質問（3～6年生）での肯定的回答率は70.6%と伸び悩んだが、全児童対象の類似の児童アンケートでは、「体を動かすことが好き」に肯定的回答をした児童は前期に引き続き後期も88%であり、運動に対する興味・関心は依然として高い現状である。運動に関する取り組みは、夏のプール水泳、秋の運動会に加えて、冬のかげ足やなわとびなど強調週間を設け、学校全体で目標をもって取り組むことができた。長座体前屈の記録については、学年によって記録に差がみられたが、4～6年生で+0.1 cmという結果に終わり、指標を達成することはできなかった。</p> <p>④ 元気アップ週間や健康教育の授業実践などを通し、児童が心身を意識し、よりよい生活習慣を身につけようとする姿が見られた。その結果、前期に引き続き、指標を上回る87%の児童が肯定的に回答することができた。各学級においても、寒くなってからも手洗い・うがいの励行を呼び掛けたり、保健だよりを配布する際に発達段階に応じた説明をしたりと、時季に応じた身近な話題から児童が健康を意識することができるよう働きかけを行ったことで、意識が高まり、学校生活の中でも行動に変容が見られた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>① 引き続き、学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりする経験を重ねることで、対話の有用性を体感できるよう指導を進める。また、経年調査における各教科の問題については、普段児童が取り組んでいる各教科の単元テストとは形式が異なるため、過去の問題例を取り上げながら「解き方」「答え方」に児童が慣れるようにするなど、丁寧な指導を重ねる必要がある。</p> <p>② 次年度もイングリッシュタイムの放送は実施していく。学級における外国語活動では、アクティビティやチャンツ、英語の歌など多様な活動を取り入れ、児童が楽しみながら英語に親しみ、外国語への関心を高める必要がある。</p> <p>③ 運動好きの児童は多いが、柔軟性となるとまた別の指導が必要とされる。計画的かつ継続的に取り組むことができるようなストレッチやマッサージなどの取り組みを行う必要がある。</p>	

- ④ 引き続き発達段階に応じた言葉がけで身近な健康習慣について指導を進める。また、家庭生活における生活習慣については、各家庭の実情に合わせた実態があり、中には指導に配慮が必要な場合もある。児童のよりよい健康に向け、啓発活動を行いながら各家庭と連携を取り、今後も指導を進めていく。

(様式2)

大阪市立巽小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の63%以上にする。(R5 1% (全体の活用率は42.3%) R6 62.9% R7 66.7%)</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を97%以上にする。(R6 96% R7 96%)</p> <p>○児童アンケートにおける「学校生活で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R5 80% R6 89% R7 86%)</p> <p>○毎週金曜日に「ゆとりの日」または「ノー残業デー」を設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は5日以上、冬季休業中は5日以上設定する。(R5 夏5回 冬5回) (R6 夏5回 冬5回) (R7 夏5回 冬5回)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>・ICT活用に関する教員研修を年間3回以上実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・児童アンケートにおける「学校生活で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R6 89% R7 86%)</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>・毎週金曜日に「ゆとりの日」または「ノー残業デー」を設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は5日以上、冬季休業中は5日以上設定する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を66%以上にする。(R6 65.2% R7 76%)</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① ICT研修は現時点で2回行った。年度末までにもう1回、実施する予定である。教職員間でTeams, google, canvaをはじめ、ほかにも様々な活用方法を紹介し合い、充実した内容の研修ができた。研修会以外でも、学年間や隣接学年で相談しながら活用を進め、授業や他の様々な活動に生かすことができている。児童アンケートの結果は86%で、目標値には達しなかったが、児童は心の天気入力や授業などで、日常的に活用できている。アンケートを取る時点で端末を使っているという確認が必要である。
- ② 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合(1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること)が、1月現在、昨年度65.22%であったが、今年度76.19%であり、指標は上回り、意識づけはできている。

次年度への改善点
① 教職員間での ICT 活用の差を縮小するため、実践事例の共有や研修内容の充実を図る。情報活用能力の育成に向けた系統表を作り、端末の活用をより効果的に進められるようにする。特に「情報モラル」について、学年に応じた教育を進める。
② 引き続き、働き方改革を推進し、業務の効率化と教職員の負担軽減に取り組む。閉庁日の日数については、次年度は、減数するよう検討する。

